



〈研究主題〉

主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり ～教師による子どもの「見取り」に焦点を当てて～

今年度は、各学部の研究対象となる学習グループから児童生徒1名を抽出し、教師が多面的・多角的な視点から、多様な手段で児童生徒の学びを見取ります。見取ったそれぞれの解釈を教師間で共有して指導のあり方や授業づくり等へフィードバックし、児童生徒が主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくりを目指しています。今回は、高等部の全校授業研究会について紹介します。

高等部 作業学習 陶芸班

「アンテナショップへの納品に向けて～ぐい呑み、皿（丸皿、小皿）の製作」

授業者からの授業説明

本題材では、アンテナショップへの納品を目指している。生徒が「誰のために、何のために」製品を作るのか分かることで、良い製品を作りたいという姿につながると考えた。

抽出生徒について

- ・経験がない場面で、動作が止まったり、口ごもったりすることがある。自分で考える経験が少なく、言葉の意味の理解も難しいことがある。
- ・铸込み作業は4回目、この型を複数個使って製作するのは初めてである。
- ・困ったときに相談する姿を引き出せるよう、あえて見守る支援を行った。班長に相談したり、失敗したときに報告したりすることができるようになってきている。



授業研究会から

参観者は青色の付箋紙に「子どもの言動」（事実）、ピンクの付箋紙に「見取り」（解釈）の2枚の付箋紙を記入します。その2枚の付箋紙を使ってワークショップを行い、子どもの姿から「次時につながるキーワード」を導き出します。

導入	T1の話聞いてうなづいて聞く	「分かった。がんばろう。良品を作りたい。」と思っているのではないか		
	<div data-bbox="236 1576 427 1704">班長にバケツ運びを依頼。運んだあと「ありがとうございます」</div> <div data-bbox="236 1720 427 1816">経験したことは、覚えて実践できるのではないか</div> <div data-bbox="236 1861 427 1921">班長に確認した後、T1に確認</div> <div data-bbox="236 1937 523 2065">友達にオッケーと言われても納得していないのか？ 自信がないのか？ 理解できないのか？</div>	<div data-bbox="443 1576 667 1637">何かあると班長や近くの教師に相談</div> <div data-bbox="443 1675 667 1758">すぐ質問できる距離→安心して取り組めるのではないか</div> <div data-bbox="443 1774 667 1901">すぐに聞ける場合と、自分で悩んで解決しようとする時があるのではないか</div>	<div data-bbox="683 1576 906 1659">型の大きさが分からないまま、進めていた</div> <div data-bbox="683 1697 906 1780">どこが理解できて、どこが抜けているのか？</div> <div data-bbox="683 1796 906 1901">机上の型とタイマーの位置が対応していない</div> <div data-bbox="683 1917 906 1977">本人は大変だと自覚していないのではないか</div> <div data-bbox="683 1993 906 2076">置き場、手順など伝えるとよいのではないか</div>	<div data-bbox="922 1576 1145 1771">タイマーをセットせず、攪拌を始める 「何分やりますか」「10分」「計っていますか」「計っていません」</div> <div data-bbox="922 1787 1145 1937">覚えている活動はあるが、意味とか、活動に関連するところまでの理解に難しさがあるのではないか</div>

授業場面における生徒の姿を見取っても、先生方によって様々な解釈があった。それぞれの解釈を伝え合い、聞き合いながら参観者全員で「次につながるキーワード」を導き出し、授業者へフィードバックした。

授業研究会から「次につながるキーワード」

- ・自分で気付くための手立て
- ・自分で考えるポイントを絞る
- ・工程分析し、できることを増やし、急がず自信につなげる
- ・分かりやすい意味づけ
- ・作業の手順の中に、「確認」のポイントを複数設定する
- ・「すみませんでした」「ありがとうございます」の気持ちを育てる
- ・自信を付けるための失敗場面の絞り込み



【指導助言】 秋田県総合教育センター支援班 指導主事 進藤 拓歩 氏

○授業全体について

- ・掲示物が工夫されていた。手順表の内容や示し方を「生徒が理解して使っていたか」という視点から改めて考えるなど、生徒の立場に立って手立てを評価してほしい。
- ・教師の言葉の選び方や視覚的支援など、生徒の理解を支える支援は作業学習以外の場面でも活用していくことが有効なのではないか。今回、授業者でなかった学級担任からも情報を得てほしい。

○抽出生徒について

- ・高等部は、卒業までのカウントダウンが始まっている。可能性を最大限に引き出すという視点に加え、卒業に向けて指導内容を絞り込んでいくという視点もある。
- ・手順表の情報量、情報の質など、生徒の立場に立って伝えたい内容・手段を考える。
- ・失敗を受け入れることが難しい生徒とのことであったが、失敗してもすぐに報告することで対処できることを知り、自分の成長を実感できれば、新たな挑戦につながるのではないか。

○作業学習について

- ・作業学習の考慮点の一つに「個々の生徒の実態に応じた教育的ニーズを分析した上で、段階的な指導ができるものであること」がある。教育的ニーズは、障害状態や特性と心身の発達の段階の把握、個に応じた指導内容、合理的配慮を含む必要な支援内容という3点を基に整理する。
- ・今回の協議は、学習評価の機会でもあった。教師の指導の改善と、子どもの学習の改善の双方に生かし、教育課程の評価・改善にもつなげてほしい。

授業研究会後の授業から（授業へのフィードバック）

<抽出生徒の支援について>

○困ったこと、うまくいかなかったことを考える時間を設けた。

- ・教師と振り返る時間を設けたことで、何がうまくいかなかったか、どうすればよかったのかということに気付くことができた。りを意識して作業を進める様子が見られた。

○振り返りで「タイマーがどれか分からなくなってしまった」という発言があり、本人と一緒に作業環境を整えた。

- ・確認の場を増やしたことで、足りないものに気付くことが早くなったり、「次にやることは？」という問い掛けにスムーズに答えたりする場面が増えてきた。
- ・教師が作業環境を整えるのではなく、本人と一緒に整理したことが目的や意味を理解して作業を進める姿につながった。また、本人からは「作業しやすいです」という発言が聞かれた。

